文政二年

へ13
2378
101

遠13
2378
101

小栗判官 照天之姫 伊呂吉由縁藤澤 全六冊

友人玉江楼一泉がこの本に進上狂言一場と表題して池の井司が住家に一段を綴り根本のつゞ。根本江戸正本是ハ故人山下金作上京の刻彼地の狂言作者金子一高といふ者思ひつゞけ隨せ。只一場作りあて。首尾全きものゆへ。其詞の繁と略趣を今様ふとり色。前後に例の近松が淨瑠璃。當流小栗判官小伝で愚筆を添ふる冊子なれば。金子に金に尾と合松ふ杉乃継穂して。くさぐさの事も扱わりめ。どこの金に光とかり。松をたゝうの藤澤寺。版元伊藤ふ由縁の色花ぶさ長き春に日の。目覚ぐさとぞ。

文政三年庚辰秋稿成
四年辛巳春新彫

柳亭種彦識

美濃國
青墓の
宿乃
人留女
常陸
小萩
實八
小栗の
判官
義氏

君ゆゑとぶるやうらうたし

せきぞ
やぶる車で
ゆくつるの
夜明鐘辛間ゆ
流行せ
小歌ぶり

餘湖山
玄膳が娘
照天

月傭の物縫女
阿今
實八星雲闇六が妹
松代
松壽軒西鶴
家主
頓作

池野屋莊司郎
實八小栗家臣
池野莊司正春

小栗の家臣
室川
小文次
長秋

小栗の家臣
星雲闇六

伊豆相撲の郡司
餘湖山
交膳
信一

小栗重寶
氷花之纏

小栗家臣
後藤大八

照天姫の
侍女
眞垣

三

亥

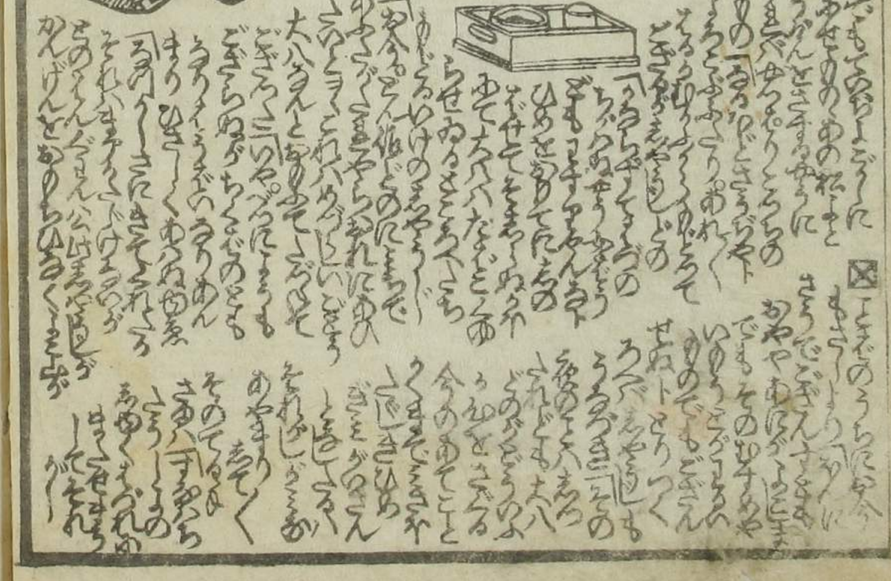
太

蟹

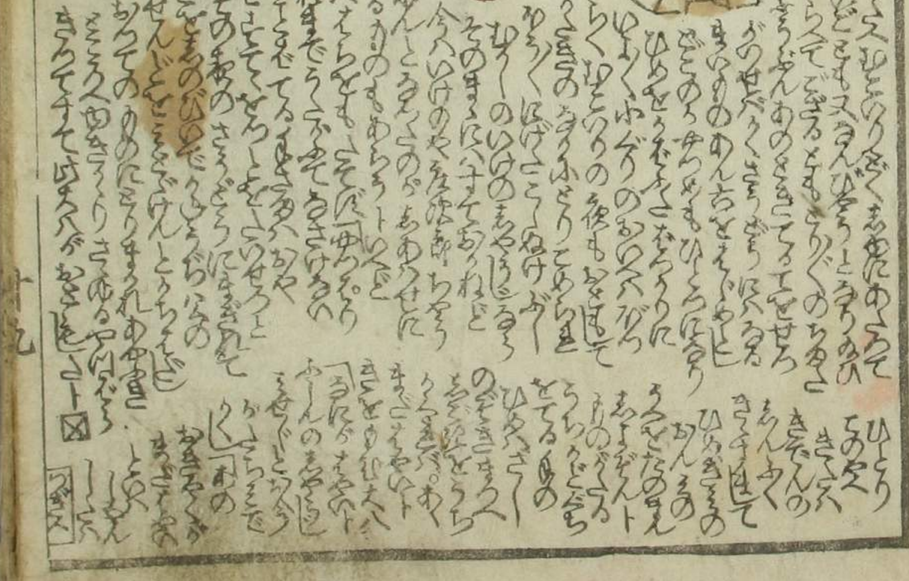
照

大

大
左



源
今



照
大
今
左

怒
大

左
右

鬼

鬼
今

大
脇
左

今
柳亭所好
新形
浅草
里吉町
村田
安蔵

大
人

庄
あんさんくび

半

三

梅
松

柳亭種彦作

歌川國貞画

筆者 藍庭晋米
彫工 江川留吉

人形筆五色絲藏

後編六冊

柳亭種彦作
歌川國貞画

これも先年賣出し〳〵る日本駄右衛門有馬のおふぢ地獄の外多賀ぞう間に合ひ絲の放一寸五分中上い松下もの三本仕組えもぎ高九月下旬より是非〳〵出来仕る種彦西入は記ねきの國貞放面白ひ作者八ぞんじの世ろ浮ぞん宜敷ゝ出賣の程偏に希る以上

山本平吉板

岩倉万之丞後編

中村仲藏信夫賣始

戯場役者四郎太郎實録

怪談鳥見絞

全六冊

作者 鶴屋南北
繪師 歌川國貞